

## カーボンニュートラル等の取り組み

### 環境マネジメント

#### 基本方針

JR北海道グループは環境保全に積極的に取り組み、地球にやさしい社会づくりに貢献します。

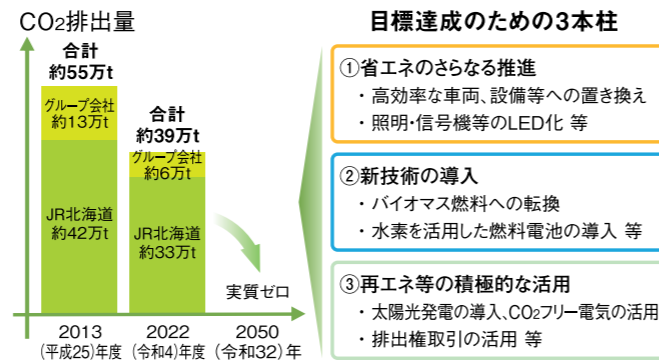
- ・環境に関連する法令などを遵守し、環境汚染物質を適正に管理・処理します。また、その削減や代替物質への転換に努めます。
- ・社員一人ひとりの環境保全に対する意識向上を図り、グループ一体となって環境保全に取り組みます。
- ・資源とエネルギーの効率的な利用に努め、CO<sub>2</sub>の排出量を削減します。また、廃棄物の削減やリサイクル、グリーン購入の拡大を図ります。
- ・環境保全に関する創意工夫に努め、住み良い環境づくりに取り組みます。

### 長期環境目標「JR北海道グループ カーボンニュートラル2050」

JR北海道グループは、2019(令和元)年度に策定した「JR北海道グループ長期経営ビジョン未来2031」において「ESG経営の実践」を掲げているほか、これまでも省エネ車両の導入等を通じてCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んできました。

政府が「2050年カーボンニュートラル」、北海道が「ゼロカーボン北海道」を宣言したことをふまえ、2022(令和4)年2月に新たに長期環境目標「JR北海道グループ カーボンニュートラル2050」を公表し、2050(令和32)年にJR北海道グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」を目指します。これにより、JR北海道グループとして「脱炭素社会」の実現に貢献するとともに、持続可能な社会の実現に向け、社会的責任を果たしてまいります。

2050(令和32)年にJR北海道グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指します。

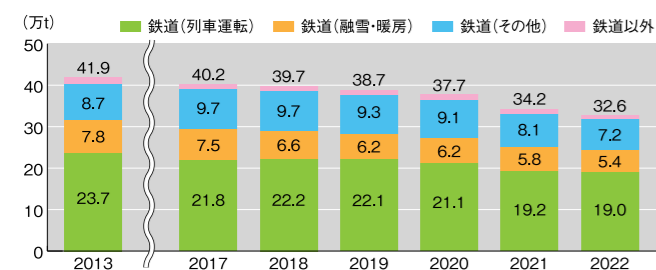


目標	～2030(令和12)年度(検討・試行期間)	～2040(令和22)年度(推進期間)	～2050(令和32)年度(定着期間)
目標	2013(平成25)年度比 ▲20%	2013(平成25)年度比 ▲50%	実質ゼロ
①省エネ推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高効率な車両、設備等への置き換え</li> <li>照明・信号機等のLED化</li> <li>灯油・重油等を使用する機器・設備の電化</li> <li>再生電力の駅照明等への有効活用</li> </ul>		
②新技術導入		<ul style="list-style-type: none"> <li>軽油燃料のバイオマス燃料への転換</li> <li>水素を活用した燃料電池車両等の導入</li> </ul>	
③再エネ等活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電の導入</li> <li>CO<sub>2</sub>フリー電気の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出権取引の活用</li> </ul>

#### 【2030(令和12)年度、2040(令和22)年度目標の考え方】

- 2030(令和12)年度は新幹線札幌開業や札幌駅再開業による排出量の増加約5万tが見込まれますが、これらを含め省エネ法の「年平均1%以上改善の努力目標」実現を目指し、「2013(平成25)年度比▲20%」を目標とします。
- 2040(令和22)年度は政府が掲げる2030(令和12)年度目標を参考に「2013(平成25)年度比▲50%」を目標とします。

### CO<sub>2</sub>排出量(JR北海道)の推移



### 事業活動による環境負荷

2022(令和4)年度の事業活動を行うために使用した電気・燃料等の資源投入量及び環境負荷量(CO<sub>2</sub>排出量)は、以下のとおりです。

●資源投入量(原油換算)		●環境負荷量(CO <sub>2</sub> 排出量)	
JR北海道	燃料 5.3万kl 電気 8.8万kl	JR北海道	32.6万t
グループ会社	燃料 1.4万kl 電気 1.3万kl	グループ会社	6.0万t

### 照明・信号機のLED化の推進

当社では電気使用量の削減に向けて、運転所・駅ホーム・本社ビル等の照明や信号機のLED化を進めています。

また、JR北海道ホテルズ(株)が運営するJRタワーホテル日航札幌では、ロビーやレストラン、客室等のお客様利用部分のLED化は完了したことから、2022(令和4)年度から2024(令和6)年度にかけて、3期に分けて事務室等のLED化を進めています。



札幌運転所



JRタワーホテル日航札幌(ロビー)

### 太陽光発電事業への参入

2020(令和2)年4月より、再生可能エネルギーを利用した事業に参画し、岩見沢市において大規模太陽光発電(メガソーラー)事業を行っています。

太陽光パネル約6,300枚、発電出力1.4MWの規模であり、年間の発電量は一般家庭約480世帯分の電力消費量に相当する約213万kWhを見込んでいます。発電した電力は、再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用し売却しています。



岩見沢太陽光発電所

### 地球環境保全に係る取り組み

#### 鉄道林などの保全

鉄道林とは、吹雪、暴風などの自然災害から鉄道を守ることを目的に植林された人工林です。2023(令和5)年3月現在で札幌ドーム約850個分\*に相当する約4,700haの鉄道林を保有しています。

また、鉄道林以外にも上富良野町に約271haの森林を保有しており、このうち約237haについて、2007(平成19)年より富良野地区森林組合や上富良野町の指導・協力を得ながら整備し、環境保全に寄与しています。

\*札幌ドームの建築面積5.5haを用いて換算



石北線 美幌～西女満別間の鉄道林

### 資源リサイクルへの取り組み

#### リサイクル事業の展開(北海道クリーン・システム(株))

北海道クリーン・システム(株)では、アルミ缶・スチール缶の圧縮・梱包、発泡スチロールの熔融・圧縮、ペットボトルのフレーク化(粉碎・洗浄)、フィルム系プラスチックのフラフ燃料化等、廃棄物の中間処理や、廃油リサイクル事業などを行っています。



溶解・圧縮した発泡スチロールのインゴット



廃プラスチックの自動圧縮梱包機

#### 外気の効率的活用(JR北海道ホテルズ(株))

ホテル日航ノースランド帯広では、2020(令和2)年10月に客室及び宴会厨房用の外気処理空調機のインバータ化を行い、客室等の稼働状況に応じた外気導入により適切な換気量確保と省エネの両立に努めています。その結果、2022(令和4)年度の年間で、電気で約20,000kWh(約40%)、重油で約7,500ℓ(約30%)、使用量を削減しました。



インバータ制御盤



外気処理空調機

### 化学物質・有害物質の管理状況

#### 化学物質の管理

「PRTR法\*」に基づき、化学物質の適正な管理及び排出量や移動量の届出を行うとともに、化学物質使用量の低減に向けた取り組みを進めています。

\*特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理などの改善の促進に関する法律

#### PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の保管と処理

2022(令和4)年度は約11t、2007(平成19)年度からの16年間で約482t処理しました。2023(令和5)年4月時点の保管量は約28tとなっています。

#### アスベスト(石綿)の管理と処理

鉄道車両などの一部に使用されているアスベストについては、飛散しないような措置を行っています。また、ノンアスベスト製品への取り替えや法令に則った適切な管理を行っています。